



小鼓を叩くポーズで、よぉ～ポン！

(於：北公民館)



▲渡邊彩羽さん



▲小鼓を叩く代表児童

ノリ：能楽用語でリズムの取り方

行幸小「能楽」を学ぶ

12月8日(火)行幸小学校の全児童を対象に、京都府能楽囃子方同明会による「囃子堂」の講演と演奏を聴く、日本の伝統文化に触れる授業が行われました。

「能楽」は、演劇と舞、音楽(謡・器楽)によって成り立っている総合芸術で、その内の器楽を担当する演奏者を囃子方と言い、楽器の種類は笛・小鼓・大鼓・太鼓があり、これを総称して四拍子と言います。

代表児童が前日から練習した小鼓を、舞台上で囃子方の演奏に合わせて叩く一面も。同明会の谷口正壽理事は「みんないい音を鳴らしていました。1日でよくお稽古できたと思います」と、また郷土芸能クラブの児童に対し「日本の伝統芸能は、礼に始まり礼に終わります。芸能は神様に捧げるものですので、間とノリを大切に楽しんで演奏してください。」とエールを送りました。

郷土芸能クラブの渡邊彩羽さんは「いつもの郷土芸能とは異なる能楽を見れるので楽しかったです。郷土芸能クラブも、今は発表の場はありませんが、一生懸命練習をしています。また地域のみなさんと一緒に大杉ばやしを演奏したいです！」と話してくれました。



さかえ小から「あけましておめでとうございます！」



一般的な年賀はがきの表に、今年の干支である丑が5頭描かれています。みなさんもこの機会に探してみたいでしょうか？

出前授業「年賀状の書き方」

12月3日(木)さかえ小学校4年生児童を対象に、郵便局職員による「年賀状の書き方授業」が行われました。

学習のめあては、友達や親戚、お世話になった人との心のふれあいを大切にすること。また、手紙のやりとりが少なくなってきた児童にとって、心と心をつなぐ手段の一つとして、手紙の役割を認識させ、心のこもった年賀状の書き方を学ぶことです。

昨年は、休校中の生活の中で感じた「ありがとう」の気持ちをメッセージに表した「ありがとうメッセージ作文」など、手紙を通じて心と心をつなぎ、表現力や感性を高めることができました。

その気持ちを大切に、新しい年を新たな気持ちでスタートするために、児童は年賀状の書き方を学び、実際に年賀状を書いていきます。

何枚書く予定ですか？と問うと、「おじいちゃんやおばあちゃんに2〜3枚かな」「私は20枚書きます！」などの声が聞こえました。

堂々と人権作文発表会

12月6日(日)北公民館で、無観客の中、人権作文発表会が行われました。発表した児童・生徒とそれぞれのコメントをご紹介します。



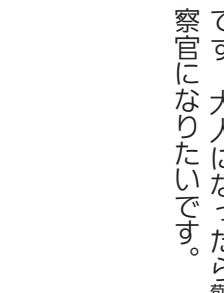
幸手小学校3年生 井上仁太さん
「ツンツン言葉とポカポカ言葉」



上高野小学校4年生 白鳥理人さん
「あいさつの大切さ」



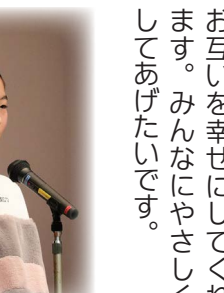
八代小学校3年生 張ヶ谷莉桜さん
「声をかけるの？」



長倉小学校3年生 村田樹璃さん
「やさしい心」



さくら小学校6年生 御代田心七さん
「育てよう心の花を」



東中学校3年生 堀江千智さん
「高齢者の笑顔」



西中学校2年生 西山桜子さん
「アイヌの人々の願い」



幸手中学校1年生 中西美羽さん
「人を思う気持ち」

※作品は、市ホームページからご覧いただけます。
問合せ 社会教育課 ☎(43)1111 内線642

